

文献 4

上杉慎太郎, 中村好男. 慢性的な下肢の重感・張り感・力が入りづらい症状に対する円皮鍼の効果
シングルケースデザインによる検討. 全日本鍼灸学会雑誌. 2013; 63(4): 276-283. 医中誌 Web ID:
2014086668

1. 目的

慢性的な下肢の重感・張り感・力が入りづらい症状に対する円皮鍼の効果を検討する。

2. 研究デザイン

N of 1 ※介入はダブルブラインド法で実施

3. セッティング

鍼灸院 東京都世田谷区

4. 参加者

慢性的な下肢症状（原因は腰部脊椎疾患や入院等による筋力低下など）を訴える 70 代の男性 1 名

（ウォーキング（毎日 1 万歩））身長 173cm、体重 56kg

5. 介入

計 10 回実施。※Arm 間は 3 日以上あけた

Arm1: 円皮鍼（セイリン社製 pyonex0.6mm）で 6 回

Arm2: sham 鍼で 4 回

使用した経穴: 左右の風市、血海、梁丘、足三里、飛揚 計 10 ヶ所

介入: 全 10 回

方法: 2 日/回貼付を継続。3 ヶ月実施した。 術者: 1 名

6. 主なアウトカム評価項目

1) から 4) は介入直前、その当日夜、翌日夜に実施した。

1) 健康状態の Visual Analogue Scale (VAS)

2) 下肢重感の Visual Analogue Scale (VAS)

3) 下肢張り感の Visual Analogue Scale (VAS)

4) 下肢脱力感の Visual Analogue Scale (VAS)

5) 歩数

7. 主な結果

下肢重感と張り感の VAS 値は、介入の翌日夜において、円皮鍼は sham よりも有意に良好だった ($P < 0.05$)。

8. 結論

円皮鍼は下肢の重い感覚と張り感を訴える患者の症状を軽減する。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

1 症例に対して偽鍼を用いて行った N of 1 の研究である。スポーツに関連する報告であるかどうか判断に迷うが、対象者は毎日 1 万歩のウォーキングを行っており、同年代からすると積極的に運動を行っていると考えることができる。VAS 値以外の客観的なアウトカムがなかったが、実際の治療院で治療効果を検討する上では、研究デザインや解析手段など、参考にすべきことが多い。この報告を参考にし、他の施設からたくさんの報告がなされ、情報が蓄積されることを期待したい。

11. Abstractor and date

櫻庭陽 2016.3.30